

初夏のイベントに賑わい戻る

新型コロナウイルス感染症拡大のため、1月23日から続いていた岩手緊急事態宣言が5月30日に解除され、町の代表的な初夏のイベント「平庭高原つつじまつり」と「くずまき高原牧場まつり」に久々の賑わいが戻りました。

くずまき高原牧場まつり

6月11日～12日



①多くの来客が楽しんだ福餅まき②牧場特製のソフトクリーム「おいしい！」
③子どもたちを楽しませるミルンちゃん④観客を魅了した歌手の大沢桃子さん
⑤行列ができた人気の牛もも肉丸焼きコーナー⑥子ウサギと触れ合う親子

くずまき高原牧場まつりは6月10日と11日の2日間、プラトリーを会場に3年ぶりに開催され、約2万人の来場者で賑わいました。

オープニングセレモニーで行われた福餅まきでは、来場者がステージ前に集まり、鈴木重男町長をはじめ関係者が投げる餅やお菓子を次々と手にしていました。

動物ふれあいコーナーでは、子どもたちが子ウサギに夢中。川戸道ゆずきさん（久慈市）は「子ウサギがふわふわしていて、抱っこしていたら眠ってしまったてかわいかった」と笑顔で話していました。

牛もも肉の丸焼きや、くずまき高原牧場ピザなど、牧場の食材がふんだんに使われた屋台には行列ができ、来場者は牧場ならではの食の魅力に存分に味わっていました。

また、ステージショーには県内外で活躍する人気歌手の皆さんが出演。2日目にはくずまき高原牧場まきば大使の大沢桃子さんが、葛巻の情景が歌詞になった「風の丘」を熱唱し、会場からは大きな拍手が送られていました。

平庭高原つつじまつり

6月4日～5日



①ツツジを眺めながら散策する家族②会場を沸かせた丸太切り大会③軽快な演奏を披露する葛巻プラス④大人気のジンギスカンコーナー⑤牛の絵付け体験を楽しむ子どもたち⑥森のこだま館職員がガイドする塩の道トレッキング⑦若者たちが楽しんだレンタサイクル⑧ワインタンクを見学する観光客

平庭高原つつじまつり（同実行委員会主催）は6月4日と5日の2日間、森のこだま館を主会場に開催され、約700人が来場しました。

来場者はセミの声や野鳥のさえずりが響く白樺の森の中を散策。鮮やかなレンゲツツジのほか、足下に咲く可憐な山野草などを鑑賞し、平庭の大自然を満喫していました。

町内の音楽グループ「音楽館」や「葛巻プラス」が軽快な演奏で会場を盛り上げる中、屋台村やジンギスカンコーナーは食事を楽しむ人で賑わいました。また、3年ぶりに開催された丸太切り大会では、参加者が太い丸太を必死にのこぎりで切る様子が観客を沸かせたほか、ワイン工場見学では、普段は立ち入る事ができないタンク室の見学を、多くの観光客が楽しんでいました。

塩の道トレッキングに参加した遠藤禮子さん（八幡平市）は「森の中で新鮮な空気を吸って健康になった気分です。セミの抜け殻も見つけられて楽しかった」と満足げな様子でした。